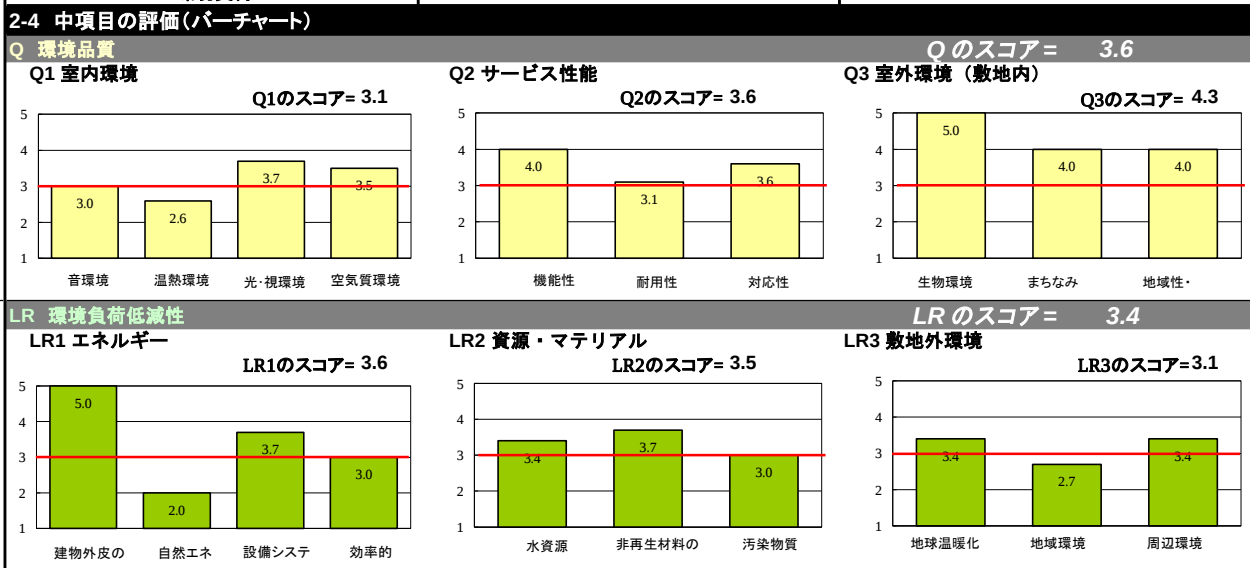
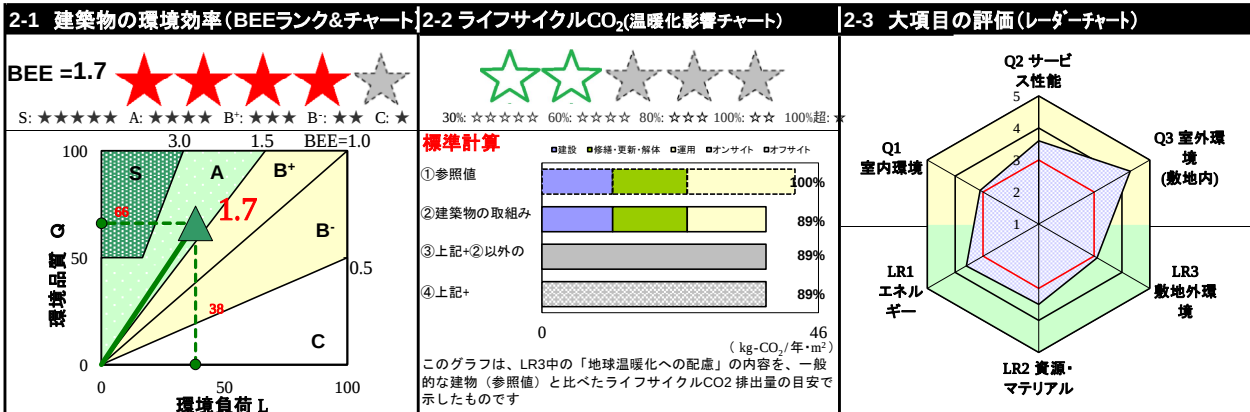


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	八雲中学校区義務教育学校建設事業	階数	地上6F
建設地	大阪府守口市下島町、八雲北町	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居、第一種住居	平均居住人員	1,536 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,480 時間/年(想定値)
建物用途	学校,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2027年8月 予定	評価の実施日	2025年3月10日
敷地面積	15,777 m ²	作成者	昭和設計 森友哉
建築面積	5,860 m ²	確認日	2025年3月25日
延床面積	22,071 m ²	確認者	昭和設計 森雄-08872-28



3 設計上の配慮事項	
総合	その他
～街と川をつなぎ、人と人がつながる出会いと成長の場～ ・ヒト・コト・モノの多様な出会いが学びを触発するワクワク感いっぱいの学習環境 ・地域・保護者・民間企業が学校と連携・協働する新しい時代のコミュニティスクールとなる場 ・淀川の眺望や自然を効果的に取り込み原風景として子どもたちの心に残る学校	将来整備するグラウンドと一体となって淀川の氾濫に備えた防災対策を講じた学校となります。
Q1 室内環境 建物外周には庇を設けて夏季の日射を抑制させる配慮をしている。中廊下に位置する屋内階段は開放型とし、最上階まで通じる階段上部には重力換気可能な窓を設け、自然通風を促進させている。断熱や開口部処理を適切に行い温熱環境を整えている。柱間隔については、教室室内に出ないスパン割とし快適な授業環境としている。	Q2 サービス性能 避難所となる大体育館、防災備蓄倉庫は、スーパー堤防と同じ高さとなる施設の3階に計画し、キュービクルは屋上へ設置するなど浸水に配慮している。3階の職員室には太陽パネルから給電可能な蓄電設備も備え、災害時にも施設が有効に活用できる計画としている。
Q3 室外環境(敷地内) 中央部分の昇降口に対して大型ピロティを設け、降雨時でもスムーズに建物へ出入り出来るように配慮している。中庭やブリッジなどはガラスを用いた透明性の高い構成とし、校舎内外への視認性が確保できる計画としている。	LR2 資源・マテリアル 躯体+軽鉄+仕上材若しくはGL工法を採用し容易な分別を可能なディテールとしている。屋内外の床仕上げ材(シート、デッキ)には再生材を活用した製品を採用するなど、カーボンニュートラルに貢献する計画としている。天井内配管ルートの確保に加え、給排水が集中する厨房・トイレ廻りには配管ピットを設けるなど、将来的な更新性にも配慮している。
LR1 エネルギー 外皮性能の向上を図るとともに、LED照明・再生可能エネルギーを採用しエネルギー消費の低減に努めている。	LR3 敷地外環境 地域の人々がくらす街のレベルと土土スケールのスーパー堤防のレベルを校舎内の「集いのステップ」にてつなげることで、学校を通じた一体感を形成している。「集いのステップ」の入口となる1Fには「まちなかひろば」を計画し、地域の方々の居場所となる地域連携室やPTA室を合わせて配置することで、学校と地域の連携の拠点をづくりだす計画としている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		八雲中学校区義務教育学校建設事業						
建設地		大阪府守口市下島町、八雲北町						
用途／区分		学校(小中高)						
【評価結果】	CASBEE 総合評価						A	
①	CO2削減						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策						4	
③	断熱性能						5	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
④	エネルギー消費性能						4	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル	住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分		評価対象外			評価対象外	
		非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分					3	
⑤	自然エネルギー直接利用						—	
再生可能エネルギー 利用施設の導入状況		太陽光発電	○	風力	—	地熱	—	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—	—

エネルギー消費量の報告						報告しない	
-------------	--	--	--	--	--	-------	--

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮	3.4	3
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出	5.0	4
敷地内温熱環境の向上	CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE LR3 敷地外環境 2. 2 温熱環境悪化の改善	2.0	
③ 断熱性能	CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制	5.0	5
④ エネルギー消費性能	CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化	3.7	4
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用	2.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他		
先進的技術の導入	技術の名称	考慮事項
特に配慮した事項		